



**Data**

監督・撮影: サミュエル・コラルデ  
 脚本: サミュエル・コラルデ/カト  
 リーヌ・パイエ  
 出演: アンダース・ヴィーデゴー/  
 アサー・ボセアン/チニツキ  
 ラーク村の人々

### ■ショートコメント■

◆本作の舞台は、グリーンランドにある人口80人の村チニツキラーク。そうなったのは、教師志望のデンマーク人青年アンダース（アンダース・ヴィーデゴー）が、3つ提示された赴任地の中からチニツキラーク村を選んだためだ。28歳のアンダースが何代も続けて農家を営む父親の後を継がずに、そんな道を選んだのは、いわゆる"自分探し"のためらしい。「学校モノ」の名作は、日本では『二十四の瞳』（54年）だが、中国では『初恋のきた道』（00年）（『シネマ5』194頁）や『草ぶきの学校』（99年）（『シネマ5』270頁）等がある。しかし、本作は？

◆北極圏に位置するグリーンランドは、その名前とは裏腹に雪と氷に包まれた一面銀世界の国。チニツキラークは人口80人の村だというから、その生活（の貧しさ）ぶりは想像がつく。そこに教師として赴任したアンダースの任務は、子供たちにデンマーク語を教えること。子供たちがデンマーク（都会）に出て生活するためにはデンマーク語の習得が不可欠だが、村に残って漁で生計を立てていだけならデンマーク語の習得は無用。したがって、生徒たちの親が子供を学校に行かせることに熱心でなかったのは当然だが・・・。

◆張芸謀（チャン・イーモウ）監督の初期の名作『あの子を探して』（99年）（『シネマ5』188頁）は、1か月だけの13歳の代用教員の女の子が、28人の子供たちに黒板に書く字を教える姿が印象的だった。そして、そこではチョークが貴重品で1日1本が使用限度だった。本作が描くチニツキラーク村は現在の姿だから、さすがにそれほど貧しくはないらしい。しかし、子供たちの授業を受ける態度はなっていないし、授業への集中力も全くないから困ったものだ。そこで、ある日、生徒の一人であるアサー（アサー・ボセアン）の家

を訪れて文句を言ったところ、逆にアサーの祖父母から、「この地で暮らす者にデンマーク語はいらない」と言われると、アンダースは・・・。

◆雪と氷の国グリーンランドでは、少し遠出をするのには犬ぞりが不可欠。こりゃ、面白そう。しかも、乗るのは簡単。そう思ってアンダースが挑戦してみると・・・？また、グリーンランドで魚を釣るのには、氷に穴を開けて、そこに釣り糸を垂らしたらすぐ・・・。そう思っていたが・・・。

『初恋のきた道』は、都会から華北の田舎にやってきた青年教師と地元の女の子との初恋を描いた「これぞ中国映画！」というべき名作だった。それに対して、本作は色恋沙汰は全くなく、グリーンランドの雪と氷の世界とチニツキラーク村での村人たちの意外に豊かで持続可能性に富んだ生活ぶりがドキュメンタリー風に描かれていく。

◆本作の主人公であるアンダースは、ホントにデンマークからチニツキラーク村に赴任してきた教師で、今もこの村で教師として暮している他、本作の登場人物は全員本人が演じているらしい。そんな限りなくドキュメンタリーに近い本作を、キネマ旬報8月上旬号で金子遊氏は「星6つ。今年の洋画第1位で決定」と本作を絶賛している。また、星4つをつけた那須千里氏も「圧倒的なロケーションが言葉を凌駕する」と書いている。たしかに、その通り、美しい映画、いい映画であることは間違いない。しかし、私はこの手の映画はあくまで星3つ・・・。

2019（令和元）年9月12日記